

ラオスから世界に(栃木市立合戦場小学校 越沼 有子)

【実践者】

氏名	越沼 有子	学校名	栃木県 栃木市立合戦場小学校
担当教科等	教務主任(外国語、音楽)	対象学年(人数)	全校児童(335名)教職員(27名)
実践年月日もしくは期間(時数)	R5年7月6日(木)第1回グローバル集会 R5年8月31日(水)教職員研修 R5年9月6日(水)第2回グローバル集会 R5年10月3日(火)～24日(火)全クラス1回道徳 R5年11月1日(水)第3回グローバル集会		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域:道徳		
2. 単元(活動)名:「ラオスから世界に」 C 主として集団や社会との関わりに関すること【18 国際理解・国際親善】		
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ:「9枚の写真から」 単元目標: 第1・2学年…ラオスの人々に親しみをもったり、自分たちと異なる文化のよさに気付いたりできる。 第3・4学年…ラオスと自国の文化との共通点や相違点に目を向け、それぞれのよさに気付くとともに、他国の人々も自分の文化に愛着をもっていることにも気付くことができる。 第5・6学年…ラオスの文化やそれに関わる事柄を互いに関連付けながら国際理解を深め、他国の人々も自分の国の文化と伝統に愛着や誇りをもって生きていることについて一層の理解を深めることができる。 関連する学習指導要領上の目標: 第1・2学年…他国の人々や文化に親しむこと。 第3・4学年…他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。 第5・6学年…他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。		
4. 単元の評価規準 ※栃木市グローバル教育基本計画より	①知識及び技能	互いの立場や考え、気持ちを共感的に理解し、思いや考えを伝え合おうとしている。
	②思考力、判断力、表現力等	正しい情報をもとに、多面的・多角的な視点から物事をとらえ、客観的に判断しようとしている。
	③学びに向かう力、人間性等	自分とは異なる文化や歴史、考え方など多様性を尊重し、国際社会の一員として生きようとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 栃木グローバル教育計画にもとづき、すべての児童が広い視野に立ち、郷土や国家、国際社会を理解し、その発展のために貢献しようとする意欲と態度の育成を図ることを目指し、単元を設定した。 教務主任としての利点を生かし、全校児童に関わる授業実践を行いたいと考え、担任の代わりに道徳の授業を各クラス1時間行うことを計画した。また、1時間単発での授業ではなく、数時間の授業を通して少しずつ学びが深まる授業実践ができないだろうか考えた。そこで、	

業間活動時に「グローバル集会」を3回実施することで、合計4回の授業実践を行うことにした。

【単元の意義】

第1次は、ラオス派遣前に、第1回グローバル集会を実践した。ラオスを知らない児童、教職員が大半だったので、まずは『ラオスにふれる』ことを目的とし、位置や国旗、簡単なあいさつなど基本的情報を伝えた。児童からラオスについて知りたいこと、質問したいことを募集した。また、現地との実感をともなう交流を行いたいと考え、ラオスの小学生にプレゼントする七夕かざりを作ってほしいと本校の全児童にお願いをしたところ意欲的に取り組むことができた。職員室前にラオスコナーを設置し、質問ボックスと七夕かざりプレゼントボックスを常設することで、時間にゆとりをもち、継続的な取組を行うことができた。

第2次は、ラオス派遣直後に、『ラオスとの肯定的な出会い』を目的として職員研修と第2回グローバル集会を実践した。教職員にとっても身近な人から海外のようすを聞く機会が少ないので、このような場の設定は効果的だった。特にラオスの教育事情や、ラオスの方の人生観について興味をもっていた。児童はラオスの小学生が作った折り紙の実物や動画、ラオスでのエピソードやクイズに興味をもっていた。また、質問ボックスにあった知りたいことの答えをまとめ、配付した。

第3次は、各クラスで、C:主として集団や社会との関わりに関すること【18 国際理解・国際親善】の内容についての道徳の授業を、グローバル集会での活動とつながりをもたせることを意識しながら実践した。これまでは、情報を吸収することが多い活動であったが、参加型手法(フォトランゲージ、対比表、グループワーク)を取り入れ、ラオスをきっかけに、国際協力、文化・習慣の違いを受容する態度など、世界とのつながりについて考えたり、気付いたりできるようにしていった。

第4次は、第3回グローバル集会として実践した。ISAPHの石塚さんにオンラインで集会に参加していただいた。第1回グローバル集会でもふれた、SDGsの視点に再度考える時間を設け、『ラオスの課題・現状』『社会参画する力』を意識した。自分と同じ栃木県出身の人が海外で活躍していることや、石塚さんの国際協力に粘り強く取り組む姿勢など、ラオスをきっかけに持続可能な社会づくりに向け行動できるようになることを目指して実践を行った。

【児童観】

本校は普通学級12、特別支援学級2の合計14学級、335人の児童が在籍し、外国人児童は4人(ブラジル、フィリピン、スリランカ)である。児童は思いやりのある子が多く優しく人に接することができるが、人前で自分を出す場面では、恥ずかしがり、自信のない様子が見られる。海外に対して興味のある様子は見られるが、ふれる機会が少ない。本単元を通してラオスがきっかけとなり、世界に目を向けることができるようつなげていきたい。

【指導観】

これまでの取組(グローバル集会やラオスコナー)から、ラオスへの知識・興味は高まっているが、やや受け身の授業実践が多くなっていた。そこで、本時の授業テーマでもある「9枚の写真」を児童がじっくり見る時間、気になるところや不思議に思ったところを考える場面を設定したり、参加型手法を取り入れたりして、児童がより主体的に授業に向かうことができるようにしたいと考えた。また、児童の発達段階を考慮しながら、国際協力やSDGsの視点、文化や習慣の違いを受容する態度、日本とラオスのつながりから世界とのつながりへ目を向けることができるようにしたいと考えた。

6. 単元計画(全4時間) ※全校集会を活用し、4時間で設定した。

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 7/6 (木)	ラオスって どんな 国? (第1回 グローバ ル集会)	ラオスの国旗、こと ば、文化等に触れ、 知りたいことや質問し たいことを考える。	①ラオスクイズを考える。 ②グーグルアースで位置を確認後、ラオス の小学校のことを知る。 ③知りたいこと、質問したいことを考える。 ※休み時間等を利用して、質問を書いた 用紙を箱に入れることを伝える。 ④ラオスの小学生に日本の文化を伝える 授業を越沼先生がすることを知る。 ※セタかざりをラオスの小学生にプレゼ ントするので、協力してほしいことを伝え る。 ⑤自分の願い事を考えて、カードに書く。 ⑥ラオスのあいさつをする。	・写真 ・グーグルアース ・質問用紙・質問用 紙を入れる箱 ・折り紙 ・セタかざりを入れ る箱 ・願い事を書く用紙
※ 8/31 (木)	ラオスが 教えてくれ た こと (教職員 研修)	ラオスの教育事情 やエピソードを知るこ とで、多面的・多角的 な見方について考え る。	①ラオスの教育について知る。 ②ラオスクイズをグループで考える。 ③教師海外研修で心にのこった話を聞く。 ④振り返りを書く。	・パワーポイント ・クイズ回答用紙 ・振り返り用紙
2 9/6 (水)	ラオスに 行ってき ました! (第2回 グローバ ル集会)	ラオスの小学生のよ うすや、先生のエピソ ードを聞き、ラオスへ の興味・関心を高め る。	①ラオス語のあいさつの練習をする。 ②セタの授業の様子を見る。 ③ラオスクイズを考える。 ④越沼先生のラオスエピソードを聞く。 ※お坊さんと女の子の後をついていつた ら、朝ご飯に誘われたこと。 ⑤合戦場小学校の子ども達からの質問に ついて、答えを伝える。 ⑥振り返りを書く。	・民族衣装 ・動画 ・クイズカード ・お札 ・写真 ・Q&Aシート ・振り返り用紙
3 本時 10月	9枚の写 真から	ラオスの写真9枚か ら、文化・習慣の違い を越えて互いに認め 合い、進んで協力で きる態度を育てる。	①グローバル集会を通して、ラオスにつ いて知っていることを思い出す。 ②9枚の写真を見て、不思議に思ったこ と、気がついたことをグループで話し合 いながら、ワークシートに書く。 ③9枚の写真を使ってラオスかるたをしな がら、文化・習慣の違いについて考える。 ④教師の説話を聞く。 ⑤振り返りをする。	・ラオスの写真9枚 ・ワークシート ・ラオス産のバナナ の写真 ・ISAP石塚さんの写 真 ・SDGsカード
4 11/1 (水)	ラオスと SDGs (第3回 グローバ ル集会)	開発途上国やSDG sの 目標について理解を 深 める。	①ラオス語であいさつをする。 ②NPO法人ISAPHラオス事務所の石塚さ んからラオスの栄養問題や昆虫食活動 について聞く。 ③児童から石塚さんへ質問をする。 ④石塚さんから、子どもたちへのメッセ ージを聞く。 ⑤ラオス語でお礼を言う。 ⑥振り返りをする。	・資料シート ・石塚さんの写真 ・ZOOMで石塚さん とつながる ・振り返りシート

7. 本時の展開(3時間目)			
本時のねらい:文化や習慣の違いを越えて、互いに認め合い、進んで協力できる態度をそだてる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1.グローバル集会を通して、ラオスについて知ったことを思い出す。	・児童からできた意見を模造紙に書いて提示し、ラオスの情報を全体で共有する。 ・これまでの学習を想起させることで、本時とのつながりを感じられるようにする。	・模造紙
展開 (30分)	2. 9枚の写真を見て、不思議に思ったこと、気がついたことをグループで話し合いながら、ワークシートに書く。 3. 9枚の写真を使って「ラオスかるた」をする。 ①障害者を支援する中村さん ♥ ◎ ②市場で売られている肉★ ③雨水を使って洗濯★ ④剣道の道具を作っている工場 ♥ ◎ ⑤魚を捕るための舟★ ⑥かまどのある台所★ ⑦メコン川にかかる橋 ♥ ⑧虫を食べる文化★ ⑨バス ♥ ★ ◎	・グループごとに9枚の写真を配付し、十分に見る時間を確保する。 ・何を書いているか困っている児童にはモデルを示す。 ・グループで伝え合うとき、相手の意見を肯定的に受け止めるよう伝える。 ・「日本人の協力♥」「文化や習慣の違い★」「日本とラオスのつながり◎」という視点から意図的に写真を掲示する。 ・最後まで読み札を聞くことができるように、聞き終わったら「せーの」で指を指すようにする。 ・かるたをしながら、自分が1番気になった写真に挙手させ、理由を発表させる。 ・世界には開発途上と呼ばれる国があることや、食用昆虫の養殖でラオスに協力している石塚さんが第3回グローバル集会に参加してくれることを伝える。 ・新しい気づきや、ラオス以外の諸外国についてという視点を示し、振り返りを書かせる。 ・時間のある人は、石塚さんへ質問したいことを書いてもよいことを伝える。	・写真9枚 ・ワークシート【資料1】 ・スーパーで売っていたラオス産バナナの写真◎ ・SDGsのカード ・ISAPH 石塚さんの写真★ ♥ ◎
まとめ (10分)	4. 教師の説話を聞く。 5. 振り返りをする。		

8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ワークシートへの記述
9. 学習方法及び外部との連携 NPO 法人 ISAPH ラオス事務所 石塚貴章氏 栃木市教育委員会
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 ラオスコナー(グローバルコナー)の設置 合戦場小学校 HP での紹介

【自己評価】

11. 苦労した点	<p>①単元を通して学びを深めるための授業計画の工夫。</p> <p>②国際理解教育の学びの柱(出所:NIED)として、多様な人や肯定的な出会い、多様性と同一性の理解、世界と自分とのつながり、地球的課題の理解と解決を意識した授業づくり。特に地球的課題の理解と解決を意識させること。</p> <p>③全校児童を対象とした際の発達段階に応じた指導。</p> <p>④ラオスの石塚さんとオンラインでつなげる方法。</p>
12. 改善点	<p>①3 回の全校集会と道徳の授業を組み合わせることで、単元としての授業計画を行うことができた。4 回の授業を計画的に行うことで、学びの連続性や深まりにつながった。</p> <p>②ラオスに対する肯定的な出会い、多様性と同一性の理解、世界と自分とのつながりは、ラオスでの研修を生かした教材が効果的だった。世界と自分とのつながりでは、スーパーで売っているラオス産のものを紹介した。</p> <p>③同じ教材を使いながらも、発問や時間配分を工夫することで対応できた。</p> <p>④栃木教育委員会と連携し、ZOOM を活用してスムーズに行うことができた。</p>
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がラオスを肯定的に受け止めることができた。また、多様性についても「調べてみたい」「新しい見方につながる」「理由をきいてみたい」という意見をもっていた。今後の生活につながっていく手応えを感じた。 ・ラオスをきっかけに、世界に興味をもつ児童が増えた。自主学习で国旗を調べたり、ラオス語を自由帳にメモをしたり、私にラオス語で話しかけたりする児童の姿が見られた。 ・グローバルコナーを設け、ラオス以外の国を紹介したことで、「フィリピンは、〇〇さんの国だね」と児童が話している場面を見かけた。外国籍の児童はもちろんだが、全児童にとってよい影響があった。また、来校した保護者の方も立ち止まり、興味・関心をもってくださっていた。 ・外国について身近に感じることができるようになった。 ・石塚さんのお話が、キャリア教育の視点にもつながった。 ・児童だけでなく、先生方もラオスや国際理解について興味をもつようになった。 ・オンラインを活用した授業実践を行うことができ、これからの授業づくりの幅が広がった。
14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>【第1回グローバル集会:知りたいこと・質問したいこと】</p> <p>「どんな勉強をしていますか」「有名な料理は何ですか」 「海はありますか」「人気のスポーツは何ですか」「学校に夏休みはありますか」 「どんな動物がいますか」「日本語を勉強しますか」「タブレットはありますか」 「ほしいものは何ですか」「どんなゲームがありますか」</p> <p>【第2回グローバル集会の振り返り】</p> <p>1年生「じゃんけんがにほんとおなじでびっくりした。」 2年生「ラオスの人にあってみたい。ラオスの人にあって、ともだちになりたい。」 3年生「ラオス語をもっと知りたいと思いました。ラオスの人はやさしかったので、ラオスに行きたいと思いました。」 4年生「ラオスに田んぼがあって、にてると思った。」</p>

5年生「日本のことはあんまりしらないと思っていたけど、日本のことをしっていてうれしかったです。」

6年生「学校で制服を着ているとは思いませんでした。ラオスの人は日本に感謝しているとは思いませんでした。」

【教職員研修の振り返り】

「ラオスの学校の教員不足、力不足、学業の完了率・・・などたくさん問題もありながら、少しずつ他国のよさを取り入れつつ、自分たちの文化も大切にしているのだと思いました。子どもたちが人と争わず、おだやかに過ごしているのも印象的です。残業の中で気持ちをやんだり、追い詰められた気持ちになったり・・・の社会と比べて「幸せ」の意味を考えさせられました。」

「ラオスの人々の考え方、感覚がとても魅力的でした。日本の当たり前、ふつうというのは、もっと柔軟でよいのかと思いました。」

「ラオスについて現地に行かれた越沼先生のお話を聞いて、行動するって、生の声を聞くってすごいなあと思いました。どちらが優れているということではないと思うのですが、家族を大切に想ったり、身近な幸せに気付いたりできるラオスの人はとても素敵だなと感じました。」

「とてもいい話でした。「発展途上」の発展は欧米の発展。ラオスの幸せは「発展」では得られないと思う。その国、その民族の幸せ、文化を大切にすることこそ「発展」だと思う。子どもたちにも伝えたい。」

【道徳の授業の振り返り】

1年生「にほんのちからもつかってるし、ラオスもにほんにちからをあげてびっくりした。」
「けんどうのどうぐや、たべものがおくられてきてるのがすごかったです。」

2年生「ラオスの人とともだちになりたい。ラオスのくににいかいとまってみたい。ラオスのたべものをいっぱい食べたい。」
「虫はすきではないけれど、日本がラオスをたすけたことや、ラオスから日本にとれたものをとどけてくれることや、日本とぜんぜんちがうところがわかってうれしかった。」

3年生「なぜ、ふつうに虫を食べられるのか。その人とはなしたい。」
「ラオスの生活は日本の生活とはちがうけどラオスの生活も楽しそうだなと思いました。」
「ラオスも日本も協力していて、友だちみたいと分かった。」

4年生「自分の国の遊びや、日じょうをおしえてあげたい。」
「ボートにだれでものれるように置いてあると思ったけれど、自分の家のボートだと聞いてすごいなと思いました。日本にラオスのものがうっていると聞いてわたしも見てみようと思いました。」

5年生「日本とくらべてちがうところがたくさんあったけど、それでこそいいことがあるということを知ることができてよかったです。」
「今日、初めて知ったのは、ラオスにもしょうがいのある人もいし、さいがいの人もあり、ほくもラオスの力になれたらいいと思った。そして、ラオスも日本もしょうがいがいすくなくなると、すこしは平和になったらいいと思った。」

6年生「違うに出会ったとき、嫌がるだけじゃなく、知ろうとしてみたい。いろいろな人と助け合えるようになりたい。」
「自分とはちがうものにあっても、ふつうじゃないって思わないで、ふつうは人によってちがうって考えようと思った。日本とはちがう文化の国をもっと調べてみたいと思った。」
「日本ではものを生産することが安定してできている。ラオスではまだ人手がたりなかったり、お金が足りなかったりしている。だけど生活面では、世界目標のSDGsはラオスのほうができているとも思った。」

【第3回グローバル集会の振り返り】

3年生「しつもんできてうれしかった。」
「いろいろな文化があつてあこがれました。ほくも虫を食べたいなと思いました。」
「日本からしたらふしぎだと思っていたけど、ラオスからも「日本がどうしておいしい虫とかをたべないの」と思われていることがふしぎに思いました。」

4年生「ラオスの人たちがふつうに虫をたべていて、やっぱりびっくりしました。ラオスの人たちの家もさいがいにそなえていることもわかりました。ラオスのことがたくさんきけてよかったです。」
「ラオスにはぼ金がありますか。きょうみをもてました。」

	<p>5年生「虫を食べるのはびっくりしたけれど、ラオスでは栄養があってふつうに食べていてすごいと思った。」(石塚さんが)したいことをできるのがすごいと思った。」</p> <p>6年生「石塚さんが丁寧に教えてくれて分かりやすかったし、日本では食べない昆虫食を食べててすごい。昆虫食がSDGsや栄養になるのはすごいと思った。」アイサップや石塚さんは、ラオスの人たちに食べ物をかくほすだけじゃなく、その家族のことまで考えて、昆虫食を選んだってことが分かりました。」子どものころからの考えを大人になってじっこうできるっていうのがすごい。」石塚さんがラオスを助けようと思った根本は子ども時代のけいけんだった。」</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>ラオスでの教師海外研修を通して、改めてグローバル教育について考えるよい機会となった。</p> <p>1つ目は、単元を通じた実践の大切さである。児童の学びは、少しずつ深まっていくので、単発的に外国との関わりをもつ授業ではなく、授業者が授業のゴール、児童につけたい力を明確にもち、単元計画をすることに効果があった。また、同じ教科でなくても、工夫次第で単元としての場面を設定できた。</p> <p>2つ目は、児童の学習環境である。特に実物に触れることや、教師の実体験の話は教育的価値が高かった。インターネットで調べることも大切だが、こうした教材開発も大切にしていきたい。</p> <p>3つ目は、オンラインの活用方法の工夫である。これまで、海外とオンタイムでつないだ授業実践を行ったことはなかった。しかし、今回の研修で知り合うことができた石塚さんとZOOMでつながる授業実践は、児童にとって時差や気候の違いをオンタイムで感じたり、石塚さんに直接質問することができたり、効果が高かった。こうした海外とのつながりをこれからも大切にしていきたい。</p> <p>4つ目は、教職員や保護者への啓発である。先生方の振り返りを読み、多様性に触れる機会は大人にとっても学びがあることを実感した。</p> <p>このような研修に参加することは、とても貴重な機会であった。こうした研修機会があることを先生方にも伝えていきたい。</p>

【参考資料】










- ・2019年度 JICA 中国・四国 教師海外研修(ラオス)授業実践報告書
- ・「生きる力」を育む 国際理解教育 実践資料集 JICA 地球ひろば
- ・共につくる私たちの未来 SDGs から「持続可能な社会の創り手」への一歩を JICA 地球ひろば
- ・JICA 中部 教師海外研修ガイドブック

まい しゃしん
【資料 1】「9枚の写真から」

くみ ばん なまえ
組 番 名前【

】

【資料 1】

ふりかえり